

山の自然学研究会

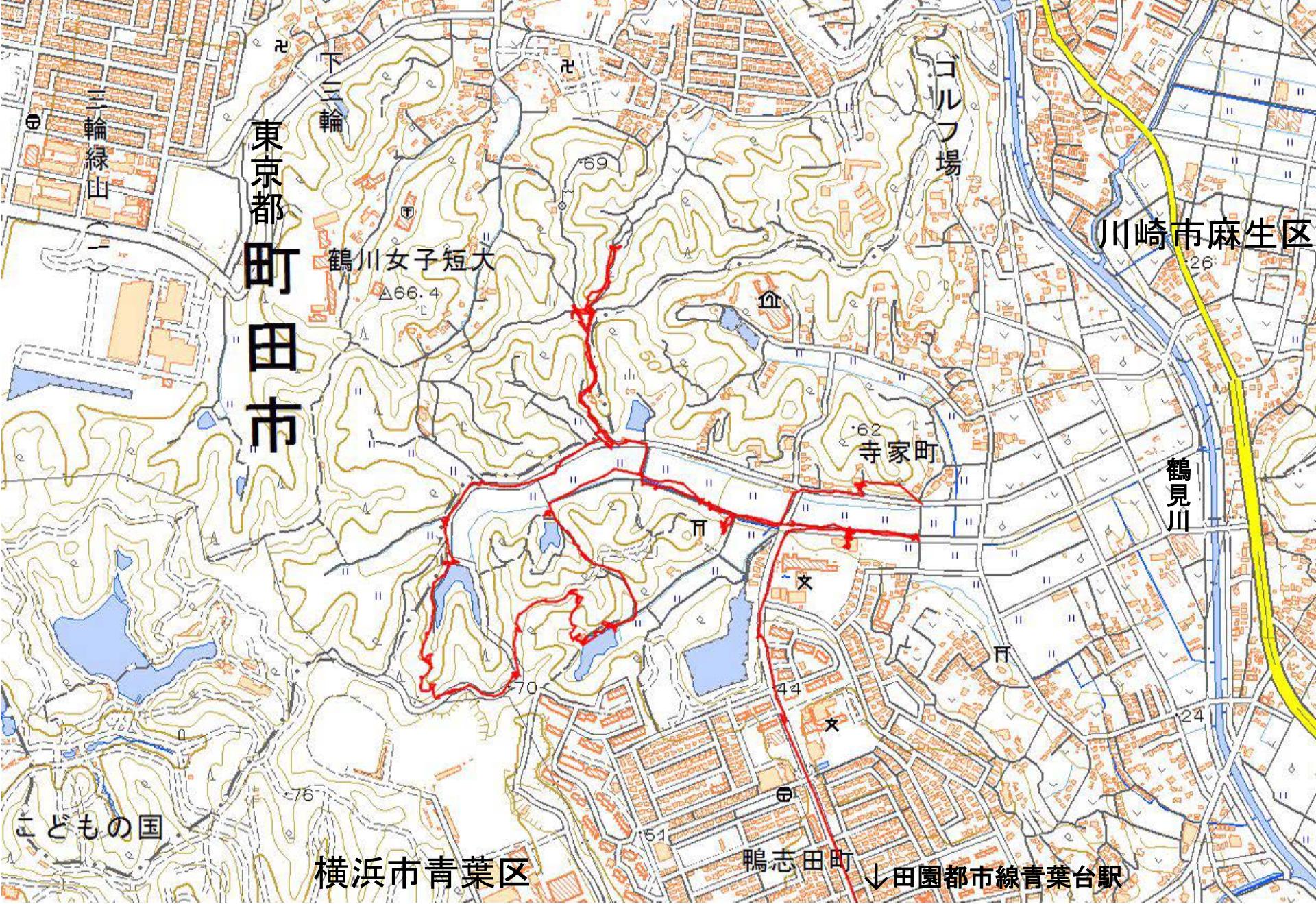
横浜寺家ふるさと村巡検

2016年5月2日

リーダー 櫛田・都留

植物解説 源原

参加者 13名



一日の巡査のGPS軌跡



東急田園都市線 青葉台から
バス乗車、鴨志田団地で下車



四季の家



キツネアザミ(狐薊)
キク科キツネアザミ属
和名の由来は、花がアザミに似ているが、
アザミではないことから

キツネノボタン(狐の牡丹)
キンポウゲ科キンポウゲ属
和名の由来は、若い根生葉が花の美しい
牡丹(ぼたん)に似ているから





ギシギシ
タデ科スイバ属
和名の由来は、しごいて取ろうとすると、
ギシギシという音がするから、果実をふると、
ギシギシという音がするからという、二つの
説があるという

オヘビイチゴ(雄蛇苺)
バラ科キジムシロ属

同じバラ科の花ではあってもヘビイチゴ
属ではなく、キジムシロ属





ゲンゲ(紫雲英)
マメ科ゲンゲ属

レンゲソウ(蓮華草)、レンゲとも呼ぶ。
化学肥料が使われるようになるまでは、
緑肥および牛の飼料とするため、稲刈
り前の水田の水を抜いて種を蒔き翌春
に花を咲かせていた。(ゲンゲ畠)



ここは、暴れ川といわれた鶴見川の西岸で、氾濫原は畑や果樹園、谷戸は水田であった

果樹園には、
梨、柿が多い



火気
使用
禁止
無野
村
管理
部

左
右
奥

進
禁
止

寺家ふるさとの森

「寺家ふるさと村」の入口



ホウチャクソウ(宝鐸草)
イヌサフラン科チゴユリ属
和名の由来は、寺院建築物の軒先の四隅に吊り下
げられた宝鐸(ほうちゃく、ほうたく)に似ているから



ミヤマナルコユリ(深山鳴子百合)
ユリ科アマドコロ属

鳴子は、長い縄に板と竹を結びつけて沢山並べ
てぶら下げ、揺らすと音がするようにした道具。
稻を荒らす鳥などを追い払う目的で使った



ゼンマイ(蕨)
ゼンマイ科ゼンマイ属
胞子葉と栄養葉が見られる

ムサシアブミ(武藏鎧)
サトイモ科テンナンショウ属

和名の由来は、花の形が、馬具の「鎧(あぶみ)」(馬の背から両側に吊り下げて足先を差しこむように乗せる半円形の馬具)に似ているから。平安時代の本草書である「和名類聚抄」や「本草和名」に既にその名が現れているという。





この小川には、季節になるとホタルが現れるという





水車小屋



下三輪玉田谷戸横穴墓群
東京都町田市三輪町にある古墳時代
後期6~7世紀の4基の横穴の1つ





ウラシマソウ(浦島草)

サトイモ科テンナンショウ属

和名の由来は、肉穗花序の先端の付属体は釣り糸状に長く伸びており、これを浦島太郎が持っている釣り竿の釣り糸に見立てたとされる



ヤブデマリ(藪手毬)
スイカズラ科ガマズミ属
和名の由来は、花穂が丸く、山野の
藪の中に自生することから。
園芸品種にもなっている。





尾根道で見た境界標識

北側は、東京都町田市(マークは都民の鳥
ユリカモメ)

南側は、神奈川県横浜市(マークはハマ)





ゲンゲとテントウムシと果実
マメ科ゲンゲ属

ゲンゲは根粒菌の働きで、根に球形の根粒がつく。
ゲンゲの窒素固定力は強大で10 cmの生育でおおよそ10 アール 1 t の生草重、4~5 kg の窒素を供給し得るという。





イモカタバミ(芋片喰)
カタバミ科カタバミ属

球根性多年草。右の写真ではまだできていないが、根の上部に小形のイモ状の塊茎を多数付けて大きな株になる。南アメリカ原産。第二次世界大戦後に観賞用として導入されて以降、国内に広く帰化している。





タマノカンアオイ(多摩の寒葵) ウマノスズクサ科カンアオイ属

環境省指定の絶滅危惧種 ヒメギフチョウの食草のウスバサイシンは別属。ギフチョウの食草は、ランヨウアオイやフタバアオイ。



リョウメンシダ(両面羊齒)

オシダ科カナワラビ属

和名の由来は、葉の表と裏の葉質がよく似て
いることによる

裏面は、胞子がない季節には
表面と区別がつきにくい



キンラン(金蘭) ラン科キンラン属
国の絶滅危惧種





ギンラン(銀蘭) ラン科キンラン属 国の絶滅危惧種

谷戸を散歩する園児たち



熊野池の釣り堀
釣り堀は、一種の農業の
第3次産業化だという





王禅寺層の露頭

上総層群の1つで、前期更新世(258~180万年前)に形成された「泥勝ち砂岩泥岩互層」
柿生層の上、生田層の下に位置する。下末吉台地(約13万年前に形成)の基盤をなす。



オカタツナミソウ(丘立浪草)

シソ科タツナミソウ属

和名の由来は、花の形が「波」が立っているように見えることから。葛飾北斎の名画の波を思い起こさせる。

ムラサキケマン(紫華鬘)
ケシ科 キケマン属

和名の由来の華鬘は、鳳凰や花などの透かし彫りを施した平らな盾型の装飾用仏具で仏殿の長押(なげし)などに吊り下げられるもの。





カキツバタ(燕子花、杜若)
アヤメ科アヤメ属 絶滅危惧II類

和名の由来は、青紫を染み出させ布などに書き付けた、つまり衣の染料に使われたことから「書付花」と呼ばれていたのがなまつたもの。アヤメ、ショウブと異なり、カキツバタは「花弁の弁の元に白い目型の模様」があるのが特徴





ヒツバタゴ（一つ葉タゴ）

モクセイ科ヒツバタゴ属

ナンジャモンジャとは、見慣れない立派な植物、怪木や珍木に対して地元の人々が付けた愛称。すなわち、特定の植物の種名ではない。ヒツバタゴを指すことが多い。





巡査を終わって、木瓜(ボケ)の里「青山亭」で昼食
櫛田さん、都留さん、源原さん、有難うございました